2023 年 11 月 20 日

一般社団法人日本損害保険協会 経営企画部国際業務室

# IAIS の 2023 年次総会が東京で開催、損保協会が業界イベントへ参画

日本損害保険協会(会長：新納 啓介)は、保険監督者国際機構(IAIS)(※1)が 11 月 9・10 日にヒルトン東京お台場で開催した東京年次コンファレンスに際し、各種イベントに参画しました。

## １．金融庁主催ハイレベルダイアログ（11 月 9 日）に新納協会長が登壇

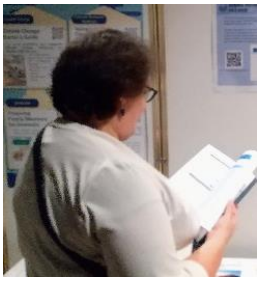
- 新納協会長は、日本の損害保険業界を代表するパネリストとして、金融庁の有泉金融国際審議官、生命保険協会の清水協会長、国際保険協会連盟（GFIA）のスーザン・ニーリー会長、欧州保険・企業年金監督機構（EIOPA）のペトラ・ヒエルケマ議長と「レジリエントな社会の構築に向けた保険の役割」をテーマに対談を行いました。
- 新納協会長は、「レジリエントな社会の構築に向けた保険の役割」というテーマが設定された本ダイアログにおいて、自然災害補償ギャップ縮小に向けて、「3 つの A(Availability, Affordability, Awareness)」が鍵になる、と約 40 の国と地域の監督者・保険会社の出席者に発信し、特に Awareness（リスク認識）の重要性に言及しました。具体的には、ぼうさい探検隊（若年層向けの防災教育プログラム）や中高生向けの保険教育等、損保協会の好事例を紹介しました。また、教訓として「people do forget（記憶は風化する)」を挙げ、社会のリスク認識を高めるためには、世代から世代に、過去の災害の出来事を語り継いでいくことの重要性を強調しました。補償ギャップ縮小に向けた官民の役割分担については、保険会社は顧客により近い立場でリスク認識の向上を行い、顧客の防減災に向けた取組みをサポートすべきであるとの考えに言及しました。(金融庁ニュースリリースはこちら)

## ２．GFIA 主催ネットワーキングディナーブッフェ（11 月 9 日）

- 同会場内で、GFIA 主催（損保協会および生保協会共催）のネットワーキングディナーブッフェが催され、官民の関係者約 260 人が出席しました。
- 本イベントは、会合参加者同士がネットワーキングを行う場として例年催されています。コミュニケーションの促進やおもてなしの観点で、日本文化を知っていただけるようなアトラクションとして、筆書きやけん玉、折り紙の体験ブース等を設置し、海外参加者からは高い満足度を得ました。また、損保協会が作成した刊行物・広報物や業界の報告書を展示するブースも設け、本邦業界や損保協会の取り組みを積極的にアピールしました。

新納協会長の登壇

登壇後記念撮影


ディナーにおける展示ブース

日本文化を体験する参加者

(※1)保険監督者国際機構(IAIS)

1994 年に設立され、世界 200 カ国・地域以上の保険監督当局(メンバー)で構成される組織。
主な活動は以下のとおり。
1)保険監督当局間の協力の促進
2)保険監督・規制に関する国際基準の策定および導入促進
3)メンバー国への教育訓練の実施
4)金融セクターの他業種の規制者等との協力
※日本からは金融庁がメンバーとして参加しており、当協会もステークホルダーとして積極的に関与する方針を掲げている。